ほしはな組のお部屋での生活は、子ども同士の共同生活であり、保育士と子どもの共同生活という面もあります。

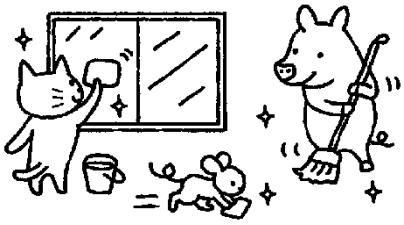
共に生活していく中で、子どもたちは気が付くと保育士のそばにきて、色々なお手伝いをしてくれます。

例えば

朝のお部屋の準備では

一緒にワゴンを押してお部屋に運んだり、おしぼりを巻いたり

みんなのお茶をピッチャーに注いで準備したり



給食の準備では

お皿を並べる

納豆をお皿によそう（納豆って難しいです！糸をくるくるっとまとめて上手にしますよ）

自分のご飯や味噌汁をよそう

また先日こんなことがありました。

お部屋の雑巾がけを始めると何人かの子が雑巾を手にやってきました。（いつの間にか何人か一緒にしてくれることが多いです。）

いつも「雑巾しぼって～」と持ってくるので、ついつい私がしぼって渡すと一人の子が怒って泣き出しました。どうしたのかな？と思い、ちょっとの間考えて、もしかしたら自分でしたいのかな？と思ったので「どうぞ」と渡しました。すると、雑巾を水で濡らし、しぼり「水、ない？」と私にたずねました。

私は反省しました。手を出しすぎたんだ、この子の機会を奪ってしまったな。きちんと絞れていなければ床がぬれてお友だちがすべってしまうこと、ちゃんとわかっていたんだな。わかったうえで雑巾をしぼることもしようと思っていたんだ。

何でも大人がやってしまわないことが大事だと改めて気づかされました。

「ひとりでできた！」という喜びの機会をたくさん作ってあげたいですね。

参考　0～6歳のいまをたのしむモンテッソーリの子育て（月刊クーヨン増刊）

現実的な役立つ仕事をするときに、子どもたちは楽しく没頭し、同時に子どもたちの動きは調整され、自我は発達して強化され、安定感や自分を大事にする思いが育まれていきます。

「私にはできる、私には何かしらの価値がある、周囲の人たちは私の協力を必要としている、私のする仕事は他の人にとって意味があり、私は無力な存在ではなく、何かをすることによって周囲の世界を変えることができる。」これらの重要なメッセージは、成長過程にある子どもたちの心のなかに深く刻み込まれ、将来いかなるときも、その子どものしっかりとした支えになっていきます。

シルバーナ　Q.　モンタナーロ著いのちのひみつより引用